

梅酢メタボ対策に期待

東農園社長 中国の医薬大で効能講演

みなべ町東本庄、梅干し製造販売会社「東農園」の東善彦社長(65)が、中国・長春中医药大学で開かれた国際学術研究会で「梅酢カルシウム」をテーマに梅の効能について発表した。梅干しは中国でも健康食品として需要が高まりつつあり、中国の研究者や学生から多くの質問が寄せられたという。

企業関係で唯一の参加

東社長は2年ごとに同大を訪れており、今回で4度目。これまで「日本における梅の歴史」「梅肉エキス」の効用、「梅クエン酸の効用」について発表してきた。

9月中旬に行われた研究会には約40人の学者、研究者が参加。日本からは京都薬科大、近畿大の教授らが医療や薬学について研究発表した。東社長一人だけだった。



「梅の効能」について発表した東社長

東社長によると、同大で梅干しを研究する教授や学生が増えており、東社長の研究発表に対し、具体的なデータの問い合わせがあるなど、関心の高さが伺えたという。

東社長は「中国で日本の梅干しの消費が広がれば、日本一の産地・みなべ町としても販路拡張につながる。効能について地道にアピールしていきたい」と話している。

策としても期待され